

茗溪学園中学校高等学校

個人課題研究発表会 in 早稲田大学

教務部長 田代 淳一

茗溪学園高校個人課題研究田代ゼミと早稲田大学松本・山田ゼミとの研究発表交流会、今年も実施しました。
今回はその報告です。

3年目になる研究発表交流会。茗溪学園高校2年生が1年生の1月から1年間かけて自分の興味のあるテーマを探索し研究し論文にまとめる個人課題研究（創立以来31年間かけて発展継続しています）を、論文提出締め切り直前の11月末にこのINFOE誌編集長松本輝彦先生と山田芳樹先生の早稲田大学での講座「留学サバイバル講座」受講生の前で発表し、発表スキルのチェックをしてもらい、早大生にとっては高校生未熟なプレゼンを振り返る材料にしようというコラボレーション企画です。

年々発表希望者が増え続け、今年の田代ゼミのメンバーからは26名の発表があり、聴衆役を含めて40名の生徒を連れて11月27日に早稲田大学120号館を訪れました。さすがに26名ではひとつの会場では無理のため、2会場を用意していただき、更に今年は午前中からスタートという日程。茗溪学園は週6日制の学校のため、この40名は授業を公認欠席しての参加です。10分発表、5分の質疑応答。司会者・計時係を募り、早大生も2会場に分かれての発表会です。別表を見ていただければ分かりますが、指導担当が私（化学の教師）

のためテーマが若干理系に偏ってはいますが、生徒の興味は経営学から国際支援、環境科学、農学、理工学、生物学、看護学、医学にいたるまで幅広くわたっています。内容をいくつか紹介しましょう。

アメリカから中学1年に編入の永井日香里さんは将来国際看護学を学ぼうと志しています。特にアフリカ地域のHIV母子感染に関心があり、「Preventing Mother-to-Child Transmission of HIV/AIDS in Sub-Saharan Africa」というテーマで研究を進めました。聖母大学准教授西浜佳子先生、JICAタンザニアHIVプロジェクトリーダー角井信弘先生に面会しアドバイスを得ながら研究をまとめ英語論文化しました。プレゼンも英語で行い、早大生からも僕たちでもなかなかここまでできないという評価をもらいました。

シカゴからこの2010年4月に高校2年に編入したばかりの阿部英恵さんは医学を志しており、「経口免疫寛容誘導によるアレルギー治療はどこまでできるか」というテーマで研究しました。スギ花粉症に対する経口免疫寛容剤については、昨年度私のゼミの宮崎光さんが国立成育医療センターアレルギー部長齋藤博久先生にアドバイスをもらってまとめた論文があり、それを踏まえての研究です。阿部さんはOVA抗体の経口投与により調節性DC細胞と調節性T細胞の寛容状態が誘導される仮説について山口大学名誉教授の加藤昭夫先生にアドバイスをもらってまとめました。

ロサンゼルスからの高校入学生金丸詩織さんは環境問題、特に外来魚に関心があり、「日本国内に存在する外来魚の駆除～琵琶湖～」というテーマにしました。フィールドワークを大事にし、滋賀県立琵琶湖博物館の中井克樹先生のもとで琵琶湖の外来魚と対策の実態を知り、実際に漁も体験したりブラックバスを用いた料理も体験し、文献からはわからない対策現場のジレンマも理解して論文化しました。

香港からの中学入学生の清水南希さんは将来国際機関で支援活動を希望していますが、特に貧困国の人身売買問題に関

